様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｈ００９２１

研究課題名（和文）ポスト新自由主義時代の社会運動が提唱する「もう一つの世界」に関する国際共同研究

研究課題名（英文）International Collaborative Research on 'Another World' Envisioned by Social Movements in the Post-Neoliberal Era

研究代表者
和田　毅（Wada, Takeshi）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：２０５３４３８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,900,000円

研究成果の概要（和文）：新自由主義的な経済改革が世界各地で進み、人・物・金・情報・サービスが国境を越えて急速かつ大量に移動するグローバリゼーションが進展した一方で、様々な社会集団が新自由主義とは異なる価値観に基礎を置く社会の構築に向けて声を上げてきた。本研究は、ラテンアメリカ地域におけるこのような「もう一つの世界」を求める抗議行動を調査対象とする16名の国際共同研究チームを編成し、10か国の抗議イベントを比較分析し、その成果を書籍にまとめた。一見多種多様で無秩序にもみえる市民の活動を反動的なものと先取的なものとに類型化することによって、その特徴を理解しやすくなることを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2010年代に入り、新自由主義とグローバリゼーションの潮流が行き詰る中、新たな社会の方向性を模索する動きが強権的指導者の台頭や各種社会運動の興隆等の形をとって世界中で進行している。このような新しい傾向を観察し理論化することによってその本質を理解する今日的な社会的意義は大きいと言える。また、本研究は、東京大学の研究者と大学院生が中心となって、ラテンアメリカ諸国やアメリカ合衆国の研究者や大学院生との間にネットワークを構築することに成功した。この研究ネットワークは、本研究のみならず、今後の学術的な国際交流や共同研究を支える礎となる点で重要な学術的意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：While neoliberal economic reforms have advanced in many parts of the world and globalization--the rapid and massive movement of people, goods, money, information, and services across borders--has progressed, various social groups have raised their voices to build societies based on values different from those of neoliberalism. This study organized a 16-member international research team to investigate such protests for "another world" in the Latin American region. The team conducted a comparative analysis of protest events in 10 countries and compiled the results in a book. We found that by conceptualizing the seemingly diverse and chaotic activities of citizens as both reactive and proactive, their characteristics become easier to understand.

研究分野：社会学

キーワード：社会運動　グローバリゼーション　ポスト新自由主義　イベント分析　国際共同研究　ラテンアメリカ　中南米　抗議行動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）1970 年代後半以降、国家による経済への介入を抑制して自由市場を促進しようとする新自由主義的経済改革が世界各地で進んだ。その結果、人・物・金・情報・サービスが国境を越えて急速かつ大量に移動するグローバリゼーションが進展し世界規模の市場が誕生した。その一方で、世界各地の様々な社会集団が新自由主義とは異なる価値観に基礎を置く社会の構築に向けて声を上げてきた。1980 年代に構造調整政策に反発した民衆の食糧暴動や「反 IMF 暴動」、1990 年代にメキシコの先住民農民が新自由主義的なグローバル秩序を批判した「サパティスタ蜂起」、2001 年にブラジルのポルト・アレグレで、「もう一つの世界は可能だ」を合言葉に発足した世界社会フォーラム等はその顕著な例である。また、アルカイダやイスラム国のような原理主義を掲げる闘争、南米における左翼や先住民運動による政権奪取（ピンクの潮流）、2010 年チュニジアでのジャスミン革命を端緒として中東アラブ諸国で生じた一連の大規模な反政府抗議行動（アラブの春）、2011 年 9 月にアメリカ合衆国ニューヨークのウォール街で始まった「Occupy Wall Street」運動も、既存秩序への挑戦として記憶に新しい。近年のヨーロッパにおける移民排斥運動やアメリカのトランプ大統領の誕生等も新自由主義的なグローバル秩序に代わる「もう一つの世界」を求める今日的な動きである。

（２）これらの「もう一つの世界」を求める社会運動の性格は多様であり、それらが掲げる「もう一つの世界」のビジョンには相反するものも多い。それは、グローバル化の影響が国や地域、社会階層、エスニシティ、ジェンダー、宗教等によって異なるためだと考えられる。新自由主義に対抗する抗議行動や市民社会の活動は政治社会学・社会運動研究の分野でも既に盛んに取り上げられているが、その多くはそれぞれの研究者が得意とする事例の分析であり、「もう一つの世界」を掲げる運動の多様性と全体像を捉えようとする研究はあまり見られないのが現状である。壮大なテーマであるため、少数の研究者ではその全体像を把握することすら困難であることや、適当なデータが見当たらないという問題も、そのような研究を行う際の障害となっている。しかし、「もう一つの世界」を掲げる運動の多様性を理解するためには、個別事例から出発するよりも、まず全体像から広く把握し、世界的な潮流と地域的な傾向を理解する必要がある。本研究の構想は、このような既存研究の批判的検討から生まれたものである。

２．研究の目的

（１）この研究の目的は、「もう一つの世界」を追求する社会運動の多様性を比較検討することによって、これらの運動が提唱する新しい価値観に基づく「ポスト新自由主義時代」の社会とはどのようなものなのか、その可能性と限界はどこにあるのかを探求することである。核心をなす学術的「問い」は以下の通りである。㋐「もう一つの世界」を提唱する社会運動にはどのような種類・類型があるのか、そして、その違いや多様性は何に起因しているのか。さらに、㋑それぞれの運動の類型について、その可能性と限界はどこにあるのか。とくに、どのような条件下で、各社会運動が成功を収め、それぞれが抱く「もう一つの世界」の実現に近づいていくのだろうか。

（２）この研究の目的を提唱する理由は、その今日的な重要性である。グローバル化によって技術革新や経済成長を享受してきた世界の多くの人々は、市場の重要性を認めると同時に、2008 年のリーマン・ショックのような世界的金融危機の危うさや、貧富の格差の劇的な拡大、雇用の不安定化等の不安も抱いている。市場中心のグローバル化がはらむ負の問題を指摘し、新たな社会の在り方を提案してきた様々な社会運動を取り上げて、21 世紀の世界が進むべき方向を模索することは、今日的に非常に重要なことである。

３．研究の方法

（１）この研究の学術的創造性は、広範な比較分析を実現するために３つの革新的なアプローチを組み合わせた研究方法にある。第一は、量的分析アプローチである。これは、全世界の社会運動に関する最新のデータを統計分析し、世界全体の潮流や地域的傾向を把握するアプローチである。第二は、質的な比較事例分析アプローチである。これは、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北米、中南米各地域において「もう一つの世界」を提唱している社会運動のフィールド調査を実施し、その事例調査を集めて比較研究するアプローチである。第三は、国際共同研究アプローチである。グローバル化に対抗する社会運動の地域的・社会階層的・戦略的・思想的な多様性を包括的に理解するためには、様々な地域の専門家の知見を結集して取り組む必要がある。このため、各地域の専門家と国際共同研究体制を敷いてこの課題に取り組む。さらに、大学院生の参加を奨励し、次世代の研究者の育成も同時に実施する。

（２）当初の計画は、（１）に記載した通りであるが、2020 年春以降、新型コロナウイルスが全世界で流行したことにより、様々な地域の専門家や大学院生を集めて研究活動をおこなうことが困難になった。2020 年 3 月には、東京での開催を準備していた国際共同研究チームの報告会・ワークショップを直前に中止せざるを得なかった。さらに、世界各地の社会運動に関するフィー

ルド調査を実施する質的比較事例分析アプローチを進めることも現実的ではなくなってしまった。このような予期しない事態に直面し、研究計画を修正する必要が生じたため、まず、研究期間を１年延長したうえで、第一の量的分析アプローチを主体にすることにした。このアプローチは、人と接するフィールド調査を実行することなく研究を進めることが可能なため、新型コロナウイルスが蔓延した状況であっても継続することが可能だと判断した。さらに、国際共同研究アプローチについても、対象地域をラテンアメリカに限定することによって、リモートで研究会を実施しやすい態勢を整えることにした。ラテンアメリカ地域を選んだのは、研究代表者がラテンアメリカ地域研究の専門家であり、現地の研究者や大学院生とのネットワークをもち、非常事態においても多くの人々の協力を得ることが可能だったことが主な理由である。新型コロナウイルスの流行が沈静した後、再び全世界を対象とした研究を再開したいと考えている。

（３）政治行動の量的分析を専門とするチリ・カトリカ大学の Nicolás Somma 教授とアメリカ・Tulane 大学の Moisés Arce 教授と国際共同研究チームを編成した。ラテンアメリカ地域の「もう一つの世界」を求める人々の政治行動のパターンを、より詳細なレベルで観察し比較するために、主要国それぞれにおいて、政治活動や抗議行動の事件（イベント）の情報を地元の新聞記事等から収集する手法を用いて分析している研究者を研究チームに加えることとした。このようにして収集したラテンアメリカ各国のデータを活用して、以下の情報を整理して国内の運動の多様性を可視化した。

1. 運動を担う主体（労働者、農民、宗教、NPO、政党、マイノリティ集団等）
2. 行動戦略（暴力的行動、非暴力の抗議行動、制度的枠組内の政治行動等）
3. 主張（経済物質要求、政治権利要求、原理主義的要求、格差是正要求等）
4. 対象（行政府、立法府、司法府、地方自治体、企業、地主、一般市民等）
5. 場所（首都、地方都市、農村部等）

各国内部の多様性を可視化したうえで、ラテンアメリカ地域全体の共通点や相違点を比較検討し、「もう一つの世界」を求める人々の政治行動の特徴を描き出した。

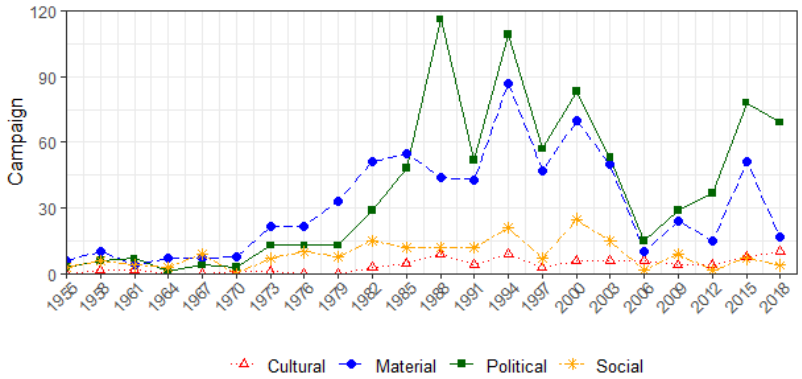
４．研究成果

（１）**国際共同研究チームによる書籍刊行。**本研究の主要な成果は、University of New Mexico Press から *Popular Politics and Protest Event Analysis in Latin America* というタイトルで 2024 年 4 月に刊行された書籍である。その特徴として以下の三点を挙げることができる。まず、第一に、この書籍に貢献した研究者の国際的な多様性である。ラテンアメリカ地域に限定せざるを得なかったものの、研究アプローチを共有する研究者を当該地域から発掘し共同研究への参加を促した結果、最終的に 16 名の様々なディシプリンを専門とする研究者（経済学者、歴史学者、社会学者、政治学者）が執筆者として名を連ねることになった。ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、ベネズエラ、アメリカ合衆国等の大学や研究機関で研究に従事する研究者たちを、研究代表者と Tulane 大学の研究者の 2 名が率いる形で書籍刊行に至った。さらに、この過程でリサーチアシスタントとして活躍した各国の大学院生や、討論者として貢献した研究者を含めると、30 名近い国際共同研究チームを編成することができた。この国際共同研究チームは、今後も協力を継続していく予定である。

（２）**ローカルな情報源を用いたデータベースの構築とその比較分析**。この書籍は、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、メキシコ、ニカラグア、ペルー、ベネズエラの 10 カ国における抗議イベントの研究を収集した、ユニークなコレクションである。グローバルなメディア（例えば、ロイター通信等）が配信する主として英語の記事を情報源にしてグローバルなデータベースを構築する従来の方法ではなく、各国において発行された新聞記事をもとに市民による抗議行動のイベント情報をデータベース化し、その歴史的変遷や社会空間的特徴を比較分析している点が第二の特徴である。

（３）**鳥瞰図的視点と虫眼鏡的視点からの分析**。この研究成果の第三の特徴は、鳥瞰図的視点（birds-eye perspective）と虫眼鏡的視点（magnifying-glass perspective）を組み合わせた点である。鳥瞰図的視点とは、長期の時間軸をとって分析する視点であり、抗議行動の歴史的変化を把握するのに適したアプローチである。新自由主義政策が市民の声の内容やそのあげ方に与える影響を理解するためには、新自由主義政策が支配的になる前の時代と、新自由主義政策が修正を余儀なくされる近年とを含めて比較する必要がある。書籍の前半は、このような鳥瞰図的視点に基づく分析を集めており、例えば、メキシコの場合は 1950 年代から 2010 年代までをデータ化している。一方、虫眼鏡的視点とは、重要な歴史的瞬間に焦点を当てて、その時期の抗議行動のパターンを掘り下げて分析するものである。本書の中では、新自由主義が導入される時期に焦点を当てたコスタリカとニカラグアに関する章、新自由主義政策がその頂点に達した時期に焦点を当てたチリに関する章、新自由主義に対抗する政策が生まれ始めた転換期に焦点を当てたエクアドルに関する章、そして、新自由主義への巻き返しが新開発主義という形で表面化した時期を分析したブラジルに関する章がそれに該当する。

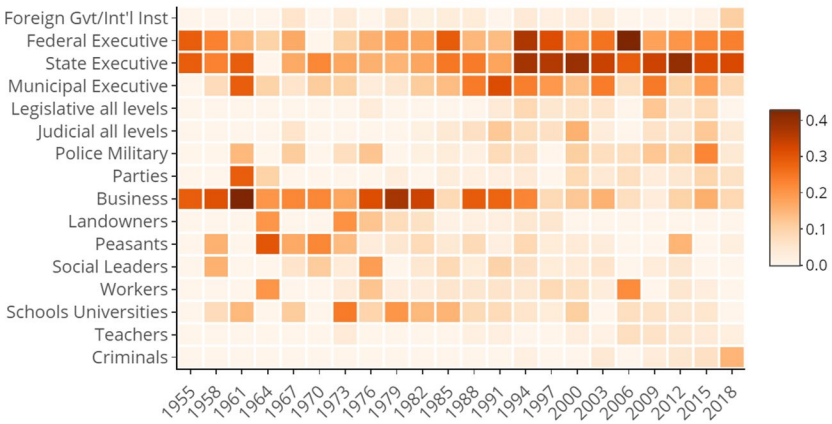
（4）**主な結果**。新自由主義に対抗して「もう一つの世界」を求める人々の運動は、ラテンアメリカ地域に限定しても、国ごとに、また国内の地域や社会勢力ごとに、非常に多様であり、無秩序のようにさえ感じられるが、抗議行動のイベントをデータベース化して歴史的・社会空間的な比較を行うことにより、以下の共通する特徴を見出すことができた。まずは、物質・経済的要求が依然として重要な点である。イングルハートが主張したような、経済的安定を重視する物質的価値観（マテリアリズム）から自己実現・環境保護・個人的自由等を重視する非物質的価値観（ポストマテリアリズム）への明らかな変化は生じていないことが判明した。メキシコの例であるが、以下の市民による要求内容の歴史的変遷を示したグラフからも、青色の物資的要求（Material）が常に上位に位置し続けていることが分かる。



第二に、無秩序なパターンにみえる各国の抗議行動も、新自由主義政策に対抗する場合は、その経済的脅威に対して「反動的な（reactive）」抗議行動になりがちであり、一方、政治システムの民主化によって開かれた機会に反応しておこなう抗議行動は「先取的な（proactive）」ものになるというパターンを見出した。反動的な抗議行動は経済的利益や権利を失う恐れからより急進的・暴力的になる一方、先取的な抗議行動はより穏健的な抗議戦術を選択するようになり、その平和的デモ行進等の抗議戦術が次第に社会の通常の政治参加のあり方のひとつとして受け入れられ「正常化」していく傾向が多くの国において認められた。その分析例のひとつが、1950 年代から 2010 年代に至るメキシコの抗議戦術を比較したヒートマップである（図）。1980 年代半ばまでは、物理的な攻撃（physical attack）、土地占拠（land invasion）、ストライキ（strike）等の直接的で対立的で時に暴力的な戦術が主流だったのに対し、それ以降主流となったのは、デモ・示威行動（demonstration）、座り込み（sit-in）、行進（march）等の穏健的な戦術である。

第三の特徴は、そのターゲットの選択である。「もう一つの世界」を求める声を実現させるために、市民はどこに向けて声を発しているかという分析結果からは、反動的な抗議行動は国家（中央政府や地方政府）をその「問題を引き起こした張本人として非難の対象」とする傾向がみられる一方で、先取的な抗議行動も国家こそ各種の「問題を解決する手段だとして要求の対象」とする傾向が顕著である。結果として、国家機構が抗議行動の主要な対象であり続けているのである。メキシコの例（以下の図）を見ても、1980 年代半ばまでは企業や地主や大学等も主要な抗議の相手であったが、それ以降は連邦行政府、地方行政府、基礎自治体が（1980 年代以前から引き続き）主要な対象となっていることが分かる。

（5）**その他の研究成果の書籍等刊行**。上述の主要な書籍の他に、本研究を進める過程で様々な関連する研究成果を生みだした。その例を挙げると以下の通りである。



①「メキシコの市民社会の変遷－民衆闘争の歴史空間的解析を通して－」星野妙子編『メキシコの 21 世紀』（アジ

ア経済研究所，pp. 53-95，2019 年）．この書籍は、低成長と不平等にあえぐメキシコの 21 世紀の展望を分析した共同研究プロジェクトの成果である。その中で、研究代表者は、抗議行動に訴えるメキシコ市民の声がどのように変遷していったのかを分析した。
②「「グローバルな俯瞰力」と「ローカルな視点」をつなぐ――メキシコの抗議行動のイベント分析を例に」國分功一郎・清水光明編『地球的思考：グローバル・スタディーズの課題』（水声社，pp. 261-281，2022 年）．この書籍は、グローバル・スタディーズと呼ばれる新たな研究分野の動向を分析した共同研究プロジェクトの成果である。その中で、研究代表者は、グローバルな「上からの視点と」ローカルな「下からの視点」を同時に結び付けながら分析する手法として、メキシコの抗議イベント分析を紹介した。
③「社会運動と「暴力」の関係――メキシコの抗議行動分析を中心に」 藤岡俊博・伊達聖伸編『「暴力」から読み解く現代世界』（東京大学出版会，pp. 179-197，2022 年）．この書籍は、世界各地域を研究対象とする地域文化研究の専門家を集め、「暴力」という現象をどのように理解・分析できるのかを論じたものである。その中で、研究代表者は、メキシコの抗議行動イベントのデータベースを用いて、国家権力による直接的な暴力的抑圧に対抗する抗議行動や、経済的貧困や先住民や女性への差別等可視化されない構造的差別に対抗する抗議行動を抽出し、時代ごとにどのような形の暴力にメキシコ市民が声を上げているのかを分析した。
④「水紛争はどこで起きているのか　―各種データベースの比較検討を通じて」 藤原帰一・竹中千春・ナジア＝フサイン・華井和代編『気候変動は社会を不安定化させるのか―水資源をめぐる国際政治の力学―』（日本評論社，pp. 123-144，2022 年）．この書籍は、気候変動の影響によって世界各地で頻発している水資源をめぐる争いの多様性を把握しようとする共同研究プロジェクトの成果である。その中で、研究代表者は、水をめぐる争いを収集した４種類のデータベースを比較し、その長短所を論じた。全世界を分析対象として、気候変動にともなう水資源問題について声を上げる人々の研究として、本科研プロジェクトとしても重要なものである。
⑤「水紛争を持続可能な開発目標に沿った形で解決できるか」『ラテン・アメリカ論集』56:35-65（三浦航太氏との共著論文，2022 年）．この論文は、水をめぐる争いが生じた際に、果たしてそれが暴力的な対立に発展してしまうか、それとも持続可能な開発目標に沿った形で解決できるのかを、環境をめぐる争いを収集したデータベース EJAtlas を用いて分析したものである。どうすれば「もう一つの世界」をめぐる争いがより建設的で民主的な解決へと向かうのかを検討した論文であり、水利用について対立する双方の勢力から信頼される人々（「ブローカー」と呼ぶ）が存在することの重要性を明らかにした。
⑥“Repertoires of Contention across Latin America” in Rossi, Federico M. ed. *The Oxford Handbook of Latin American Social Movements* (Oxford University Press, pp. 660-677，2023 年）．この書籍は、ラテンアメリカ地域における各種社会運動とその研究について、多数の研究者が寄稿した国際共同研究プロジェクトの成果である。その中で、研究代表者は、ラテンアメリカの社会運動や抗議行動がどのような戦術を用いて「もう一つの世界」を実現しようとしているのかというテーマに関して、最新の研究動向をまとめてその長短所を論じた。
⑦「インターセクショナリティ（交差性）に関する四つの疑問―インターアクション（交互作用）効果を用いた概念の拡張性の検討」 土屋和代・井坂理穂編『インターセクショナリティ―現代世界を織りなす力学』（東京大学出版会，pp. 179-197，2024 年出版予定）．この書籍は、アメリカ合衆国で生まれた「インターセクショナリティ」という概念を、世界のその他の地域の専門家がどのように活用できるのかを論じた共同研究プロジェクトの成果である。その中で、研究代表者は、ラテンアメリカ地域の調査にも十分活用できる概念であると論じ、先住民と女性に対する差別構造がどのように交差しているのかを、アンケート調査を用いて分析した。ラテンアメリカ各国の市民からマイノリティの権利についてどのような声が上がり、それが交差した形で主張されるかどうかは、本科研プロジェクトとしても重要な視角である。

（６）**国内外における位置づけとインパクト：国際共同研究の推進**。国内外の研究者との共同研究を積極的に推し進め、国際学術ワークショップや講演会等、研究成果を発表する数多くの機会を設けることによって、国際共同研究チームに所属するメンバー以外の研究者や学生も研究の成果を享受できるように配慮した。

（７）**国内外における位置づけとインパクト：若手研究者の育成**。国内の若手研究者に上記のワークショップ等で研究成果を英語で発表する機会を与え、人材の育成を進めた。また、2018 年にスイスで開催された European Consortium for Political Research の質的比較分析法ワークショップに若手研究者を派遣する等、国際舞台での研究活動を奨励し、長期的な学術的発展を視野に活動を行った。特筆すべき点は、海外の大学院生（メキシコ、アメリカ、チリ、スペイン等）と研究代表者が所属する東京大学の大学院生とが協働するワークショップ等の機会を数多く設けたことにより、双方の学生が貴重な最初の国際学術交流を体験することができ、その後国際学会等での活動を積極的に行えるようになるという成果が既に生じていることである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Wada, Takeshi	４．巻 9
２．論文標題 Geographic Distribution of Water Conflicts Worldwide: A Comparative Analysis of Four Databases	５．発行年 2021年
３．雑誌名 SDGs Collaborative Research Unit “The nexus of international politics in climate change and water resource, from the perspective of security studies and SDGs.” FY2020 Working Paper Series	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 和田毅	４．巻 9
２．論文標題 水紛争はどこで起きているのか――各種データベースの比較検討を通じて――	５．発行年 2021年
３．雑誌名 SDGs協創研究ユニット「気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス」プロジェクト　2020年度ワーキングペーパー・シリーズ	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 和田 毅、三浦 航太	４．巻 56
２．論文標題 水紛争を持続可能な開発目標に沿った形で解決できるか	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ラテン・アメリカ論集	６．最初と最後の頁 35～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50978/laronshu.56.0_35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

〔学会発表〕　計49件（うち招待講演　8件／うち国際学会　7件）

１．発表者名 和田毅
２．発表標題 グローバル・スタディーズ研究教育拠点の設置と政治社会学的実践
３．学会等名 東京大学グローバル地域研究機構グローバル・スタディーズ・セミナー（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Convention, Protest, or Violence? Explaining Tactical Choices in Contentious Political Events around the World
３．学会等名 UTokyo Center for Contemporary Japanese Studies Seminar Series（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 和田毅
２．発表標題 ラテンアメリカにおける水紛争
３．学会等名 日本平和学会2021年秋季研究集会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Transformation of Mexican Civil Society: A Historical and Spatial Analysis of Popular Protests, 1955-2018
３．学会等名 LASA2021 XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Studies of Repertoires of Contention in Latin America
３．学会等名 LASA2021 XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Debating Social Movements, Protest and Contentious Dynamics across Asia and Latin America
３．学会等名 LASA/Asia 2022 The First Continental Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Mauricio Archila and Martha C. Garcia
２．発表標題 Protest Event Analysis in Colombia
３．学会等名 LASA2021: XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Roberto Laserna
２．発表標題 Protest Event Analysis in Bolivia
３．学会等名 LASA2021: XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Moises Arce
２．発表標題 Protest Event Analysis in Peru
３．学会等名 LASA2021: XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 三浦航太
２．発表標題 チリの学生運動を事例とした社会運動の政治的帰結に関する分析：社会運動、政治、社会の相互関係に着目して
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2021年

１．発表者名 青木義幸
２．発表標題 ‘虐殺’が生み出す‘闘争’の記憶－国家暴力が韓国学生運動に与えた長期的影響－
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yoojin KOO and Jisun PARK
２．発表標題 Activism of conservative party and civil society: the influence of the party leader or resources of civil society?
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2021年

１．発表者名 加藤大樹
２．発表標題 ネット右派における話題の共有のダイナミズム
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2021年

１．発表者名 上野祥
２．発表標題 権威主義体制における複数の反対派に対する抑圧：2000年代後半のエジプトを事例に
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sumin LEE and Minkyu KIM
２．発表標題 Do petitions work? Follow up studies of local assemblies petitions after their adoption
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2022年

１．発表者名 Francesca POLLETTA
２．発表標題 Movements’ Cultural Impacts: Feminism in American Women’s Magazines, 1960-1990
３．学会等名 東京大学ラテンアメリカ研究センター Contentious Politics Workshop
４．発表年 2022年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Water Conflicts from a Panoramic Perspective and under a Magnifying Glass
３．学会等名 SDGsシンポジウム：気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス
４．発表年 2021年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Climate change resilience and local water conflicts: Lessons from Latin America
３．学会等名 「気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス」 2020年度第1回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Transformation of Mexican Civil Society: A Historical and Spatial Analysis of Popular Protests, 1955-2018
３．学会等名 Tulane University Latin American Popular Politics Workshop
４．発表年 2020年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Violence, Protest, or Convention? A Comparison of the Strategic Patterns in Contentious Politics around the World
３．学会等名 International Visiting Scholars Lunch Talks, Jack W. Peltason Center for the Study of Democracy, University of California Irvine（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hussain, Nazia
２．発表標題 Scarcity and Contention in Cities in the Global South
３．学会等名 Global Studies Seminar & UTokyo LAINAC Brown Bag Series #35（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kim, Jung Han
２．発表標題 5・18光州抗争の解釈（interpretation）と表象（representation）
３．学会等名 UTokyo LAINAC Brown Bag Series #33（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Bizberg, Ilan
２．発表標題 Diversity of Capitalisms in Latin America and the crisis of Brazil
３．学会等名 UTokyo LAINAC Brown Bag Series #29（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Medel Sierralta, Rodrigo Miguel
２．発表標題 What makes a big demonstration? Exploring the impact of mobilization strategies on the size of demonstrations
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Prospect of political event data analysis in Latin America
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

１．発表者名 Arce, Moises
２．発表標題 Understanding opposition and support for resource extraction
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koo, Yoojin
２．発表標題 Conservative Movements and Political Threats in Japan
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

１．発表者名 Cadena-Roa, Jorge
２．発表標題 Emerging trends in contentious politics in Mexico
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miura, Kota
２．発表標題 What Enabled a Student Movement to Achieve Free Higher Education?
３．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
４．発表年 2018年

1．発表者名 Serrano, Daniela
2．発表標題 Emotional responses to criminal violence: address the enigma of the protests against crime in contexts of double risk
3．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
4．発表年 2018年

1．発表者名 Lorenzo Holm, Virginia
2．発表標題 The Gap is still Giant: Gender Inequality in Mexico
3．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
4．発表年 2018年

1．発表者名 Flores Merida, Antony
2．発表標題 Collective action and social media: Networks of action and organization in response to the earthquake in Mexico, the case #Verificado19s
3．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
4．発表年 2018年

1．発表者名 Aoki, Yoshiyuki
2．発表標題 Why social movements decline? -The struggle of student movements against covertrepression-
3．学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko
4．発表年 2018年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Protest event data analysis: Addressing cross-national comparative questions using country-specific event data sets
３．学会等名 XXXVI International Congress of the Latin American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 和田毅・三浦航太
２．発表標題 共著で査読付きジャーナル（ラテン・アメリカ論集）に投稿し掲載されるまで
３．学会等名 第5回ラテン・アメリカ政経学会オンライン・ラウンドテーブル（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 和田毅
２．発表標題 社会運動論からみたインターセクショナリティの可能性――抗議行動のイベント・データを用いた交差構造の同定
３．学会等名 第31回東京大学地域文化研究専攻公開シンポジウム
４．発表年 2023年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Contentious Semantic Space: Protest Event Analysis of Shifting Claims and Discourses in Mexico, 1955-2018
３．学会等名 LASA2023 The World Congress of the Latin American Studies Association
４．発表年 2023年

１．発表者名 和田毅
２．発表標題 気候変動は社会を不安定化させるか
３．学会等名 東京大学未来ビジョン研究センターSDGs協創研究ユニット　『気候変動は社会を不安定化させるか』出版記念シンポジウム．
４．発表年 2022年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Big Data & Natural Language Processing Approaches to the Study of Political Events: Strikes and Demonstrations in Chile, 2002-2022
３．学会等名 The Fourth Chile-Japan Academic Forum 2022 in Los Lagos, Chile
４．発表年 2022年

１．発表者名 Alvaro, Nestor, Takeshi Wada, and Emilia Cuadros
２．発表標題 Generative AI and Protest Event Analysis in Latin America and the World
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Wada, Takeshi
２．発表標題 Ten Years of UTokyo LAINAC and Beyond
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Koo, Yoojin
２．発表標題 Conservative Mobilization in Japan
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Cuadros, Emilia
２．発表標題 What Is Happening with the Chilean Feminist Movement? An Approach to its Study since the 2021 Constitutional Convention
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Miura, Kota
２．発表標題 Disasters and Collective Action: Developing a Worldwide Database
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Aoki, Yoshiyuki
２．発表標題 Nationalization of Protest Memory
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Moriyama, Hikaru
２．発表標題 The Formation Process of “Diverse Coalition ” in Japan’s Anti Poverty Movement: Ideas and Strategies of Social Movements Resisting Neoliberalism
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Somma, Nicolas
２．発表標題 Labor Movements and Urban Revolts in Latin America: Findings, Ideas, and Trans-Regional Collaborations
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Miura, Kota
２．発表標題 Part of Political Elites or Protester against Them? Analysis of Trust in the Student Movement in Chile in the Era of Political Distrust
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

１．発表者名 Donoso, Sofia
２．発表標題 Political Learning in Social Movements: Individual, Organizational, and Generational Carriers
３．学会等名 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University
４．発表年 2024年

〔図書〕　計6件

1．著者名 國分功一郎・清水光明・和田毅等	4．発行年 2022年
2．出版社 水声社	5．総ページ数 429
3．書名 地球的思考：グローバル・スタディーズの課題	

1．著者名 星野妙子編	4．発行年 2019年
2．出版社 アジア経済研究所	5．総ページ数 254
3．書名 メキシコの21世紀	

1．著者名 藤岡俊博・伊達聖伸編	4．発行年 2022年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 201
3．書名 「暴力」から読み解く現代世界	

1．著者名 藤原帰一・竹中千春・ナジア＝フサイン・華井和代編	4．発行年 2022年
2．出版社 日本評論社	5．総ページ数 300
3．書名 気候変動は社会を不安定化させるのか―水資源をめぐる国際政治の力学―	

１．著者名 Rossi, Federico M. ed.	４．発行年 2023年
２．出版社 Oxford University Press	５．総ページ数 826
３．書名 The Oxford Handbook of Latin American Social Movements	

１．著者名 Arce, Moises and Takeshi Wada eds.	４．発行年 2024年
２．出版社 University of New Mexico Press	５．総ページ数 370
３．書名 Popular Politics and Protest Event Analysis in Latin America	

〔産業財産権〕

〔その他〕

The 4th Japan-Chile Academic Forum 2022
https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/event/4986/
Popular Politics
https://www.popularpolitics.org/
Contentious Politics Workshops
https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/research/lainac/research/seminars/cpw/
Contentious Politics Workshops (English)
https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/en/research/lainac/research/seminars/cpw/
Japan-Latin America Academic Conference 2018
http://www.en.lainac.c.u-tokyo.ac.jp/research/conference/forum2018/socialmovements#urabandai
UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop
https://www.gsi.c.u-tokyo.ac.jp/en/research/lainac/research/conference/2024event/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計4件

国際研究集会 The 4th Japan-Chile Academic Forum 2022 at the University of Los Lagos	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Latin American Popular Politics Workshop at Tulane University	開催年 2020年～2020年

国際研究集会	開催年
Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko	2018年～2018年
国際研究集会 UTokyo LAINAC 2024 Spring Workshop, The University of Tokyo & Doshisha University	開催年 2024年～2024年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
チリ	チリ大学	チリ・カトリカ大学	ロス・ラゴス大学	他1機関
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学	メキシコ国立自治大学	CIDE	
米国	Tulane University	University of California Irvine	University of California, Merced	他1機関
ボリビア	CERES			
コロンビア	Universidad Nacional de Colombia	CINEP		
ベネズエラ	Universidad Central de Venezuela			
ブラジル	State University of Campinas	University of Sao Paulo		
エクアドル	FLACSO Ecuador			
アルゼンチン	Universidad de Buenos Aires	Universidad Torcuato Di Tella		